

「内科通信 2010 年 7 月 14 日号」

自治医科大学内科通信の読者のみなさんへ

自治医大の内科通信です。

今年度は配信が大変遅くなり申し訳ありませんでした。

昨年度後半のスタイルを踏襲して、週刊配信を目指していきたいと思います。

コンテンツとしては、

「科長による各診療科の紹介」

「自治医大で研修中のレジデントの声」

「オリジナル問題とその解説」

が基本になります。

また、読者のみなさんのご質問やご要望にもお応えしたいと思いますのでご連絡ください。

今回の号では、内科学講座主任教授・消化器内科部門の菅野健太郎先生からのお言葉をお送りしたいと思います。

新学期によせて

自治医科大学医学部・内科学講座主任教授・消化器内科部門

菅野健太郎



全国の医学生の皆さん

自治医科大学内科通信は、自治医科大学医学部内科学講座の研修教育や臨床をリアルタイムにお伝えし、皆さんが我々の施設に少しでも興味を持って頂けるよう願ってはじ

められました。

自治医科大学内科学講座は、アレルギー・リウマチ、血液、呼吸器、循環器、消化器、神経、腎臓、内分泌・代謝の8部門からなる大講座です。これから毎月それぞれの部門の紹介が始まりますが、各専門部門は、専門性の高い研究や診療を行いながらも、密接な連携協力体制の下で研修医教育や内科診療を行っています。

充実した研修教育プログラム

自治医科大学では、すべての初期研修医は、**必修プログラム**を履修することになっています。これは研修医が基本的な内科救急疾患にきちんと対応できる実力をつけるために行われています。そのエッセンスはポケットサイズのマニュアルとして研修医の方々に配布しています（下左図）。初期研修中は、ICLS（Immediate Cardiac Life Support）の講習会が無料で開催され、認定証が得られる研修カリキュラムが組まれております。内科ローテーション中には、指導医と一緒に当直し、夜間救急外来で患者に直接対応することによって実践的な力を磨くことができます。われわれが、救急患者にきちんと対応できる内科医を作ることを初期研修の重要な到達目標にしていることがおわかりになるとと思います。



また初期、後期研修医を対象とした**内科ガイドラインセミナー**では、現在の内科臨床の基本的な考え方である EBM（Evidence-based Medicine）に基づいた各種の疾患ガイドラインについて学ぶためのセミナーで、最新の標準的医療のありかたを学ぶことができます。

主に内科を志す研修医には、**内科認定医トレーニングセミナー**が開催されています。このセミナーでは、内科認定医受験資格となる症例レポートの書き方や、内科認定医試験過去問題のポイントを専門家がわかりやすく解説を行っており、内科認定医取得を目指すレジデントに人気の講座です。過去3年間に行ってきたセミナーの内容は製本して無料で配布しています（上中図）。

このほか、各内科の興味ある症例が毎週月、火、木の朝30分間**モーニングカンファレンス**で提示され、最新の病態や治療について知ることができます。

ここで検討された症例集は今年、メディカルビュー社から刊行されました(上右図)。興味ある方はぜひご覧ください。

さらに国際的な実力を身につけたいと考えている意欲的な方には、英語でのプレゼンテーションとディスカッションを行うセミナーをAlan Lefor教授のもとに隔週で開催しています。

これらの盛りだくさんの教育・研修活動の詳細は自治医科大学**内科学講座ホームページ** (<http://www.jichi.ac.jp/naika/index.html>) をご覧ください。

自治医科大学サマーセミナー

自治医科大学では、春のオープンセミナーに加え、7月に内科、外科などさまざまな講座が医学生のために実習を含むセミナーを開催する予定です。旅費、宿泊費は自治医科大学が負担します。興味ある方は、友達にも声をかけて是非大勢ご参加ください。連絡先は自治医科大学卒業臨床研修センターです(連絡先: Tel 0285-58-7252, e-mail rinshoukenshu@jichi.ac.jp)。広大な自治医科大学キャンパスと高度な臨床を行っている自治医科大学病院を見学もできます。

自治医科大学内科通信

この内科通信では、国家試験対策として各内科部門が作成した**内科練習問題**とその解説もお送りしております。難易度が高いと感じられるかもしれませんが、ぜひチャレンジしてみてください。

レジデント宿舎の新築

自治医科大学では、レジデント宿舎の新築を開始し、来年には完成予定(イメージ図)です。

自治医科大学では、充実した教育と研修環境を提供し、総合的な臨床の実力を身につけることができます。

来年には自治医大で皆さんと一緒に内科臨床研修を行えることを願って、挨拶とします。



レジデントの宿舎は冷暖房は完備であることは勿論のこと、LANの設置やスポーツジムもあります。

今回は「自治医大で研修中のレジデントの声」と「オリジナル問題とその解説」は準備中とさせていただきます。

いよいよ、**7月18日(日)**は東京ビッグサイト東4・5ホールで**レジナビフェア**が開催されます(10:00~17:00)。

自治医大ブースはD-10です。来場予定の方は現地でお会いしましょう。

内科通信係
大須賀淳一

「内科通信 2010 年 7 月 21 日号」

自治医科大学内科通信の読者のみなさんへ

自治医大の内科通信です。

7 月 18 日(日)に東京ビッグサイトで開催されたレジナビフェア 2010 に参加されましたか？

自治医大のブースには計 126 名の方が来てくれました。ありがとうございました。



レジデントも参加して、自治医大の研修について熱く語られたのは言うまでもありません。

当日は 2010 年度版の内科研修プログラム紹介パンフレットを配布いたしました。



研修医の声とオリジナル問題は準備中なのでお待ちください。

今週末は、2010 サマーセミナーが開催されます。参加される方は多いに楽しんでください。

暑い日々が続きますが、体調を崩さないようにお過ごしください。

内科通信係

大須賀淳一

「内科通信 2010 年 7 月 28 日号」

自治医科大学内科通信の読者のみなさんへ

自治医大の内科通信です。

今回はまず「研修医の声」をお届けいたします。

研修医の声（J1 寺岡祥子）

神経内科は、学生のころから興味はあるけれども苦手意識が強い科の一つでした。しかし脳梗塞をはじめ救急でも遭遇する疾患が多く、自信を持って神経所見をとれるようになりたいと思い神経内科での研修を選択しました。神経内科では新患の入院患者さんを受け持つと脳神経から運動機能まで全身の神経所見をとります。ただまだまだ一人では神経所見の取り方が未熟なので上級医の先生が所見の確認をしてくれます。なので自分の所見の取り方で不十分だったところ、不足していたところの確認となりとても勉強になっています。また様々な神経所見の取り方があることにも驚き勉強の毎日です。

そして神経所見を取り終えると、その所見から考えられる病巣部位を考え、それから画像で確認するというステップをとるので大変勉強になります。また週に一度ある画像のカンファレンスや教授回診では実際に神経所見の取り方や画像の読み方を学ぶ大変良い機会となっています。知らないことがたくさんあり勉強の毎日ですがとても充実した研修を過ごしています。ぜひみなさんも自治医科大学で一緒に研修しましょう。

先週末は、2010 サマーセミナーが開催されました。25 名の方が参加されました。

全員参加のセミナーの他に 5 つの選択コース用意いたしました。単なる座学ではなく体験型のセミナーのため満足した方が多かったです。今年の春から開催されていますが、今後ご期待ください。当日のスナップをいくつかご紹介いたします。



今日、明日は暑さも少し和らぎますが、また暑くなるみたいですね。
充実した日々をお過ごしください。

内科通信係
大須賀淳一